

専念寺通信

専念寺通信

十月号 (NO. 110)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

秋のお彼岸が終わり、日の入りが早くなってきました。「暑さ寒さも彼岸まで」のことば通り、10月になり、朝晩肌さむいくらいです。みなさまお変わりありませんか? 『通信』10月号をお届けします。

☆秋の彼岸

今年のお彼岸はあいだに6連休が入り、長い日数、おおぜいの檀家さまが来寺されました。大玄関に記帳してくださった方の名前の合計は、289名でした。ご家族でお墓参りをするかたが多いので、彼岸の入りの前日19日の土曜日から、明けの翌日27日の日曜日までに住職と大黒がお眼にかかった方の総数は600人か、それ以上かと思われます。ひとつのお墓に、入りの日におばあさまが、お中日に長男夫婦が、明けの日にまた別のごきょうだいが、とお参りになるご家族も多く、ひとつのお墓に供花が幾度か入れ代ることもあるほどで、毎年のことながら、みなさまの信仰心の篤さ、亡くなられた方への思いの暖かさに頭がさがります。いつも必ず入りの日に来る檀家さま、必ずお中日に!という方。また、病気が良くなり、久しぶりに家族揃って来寺され、なつかしく住職ともどもつもる話をうかがった方もありました。親御さんのために車を運転して来る方が増え、日によっては狭い境内が車でいっぱいになるほどでした。脚が痛かったり、腰を痛めている親御さんのために孝行し、自身もお墓参りをする若い方が多くなるのは、本当に貴重なことだと思います。今年、法然上人の「一枚起請文」の写経を書院に置かせていただきました。一行で



も何文字かでもと出しておきましたところ、全文が2枚完成いたしました。達筆のかたが多く、記念にそれぞれを撮影し、今号に掲載させていただきます。写経なされた檀家さま、ご自分の書いた部分がわかりますか? この写経は、本堂に供え、住職が読経し、檀家さま一同の健康と平穩を祈願いたしました。



今年はお彼岸花が例年より早く咲きました。檀家さまがくださった白い彼岸花、去年は一輪でしたが、今年は入りの日から咲き始め、ご覧のようにきれいに咲きそろいました。

さほどひろくはない専念寺の境内ですが、墓地の中や本堂の前に、季節ごとにきちんきちんと、何かしら花が咲いてくれます。ことしは鶏頭が墓地のあちこちで見られ、大きな黄色の花もあり、彼岸花とともに私たちの目を楽しませてくれました。やがて秋が深まり、いちょうの葉が黄色くなり、散って、銀杏の実をたくさん降らせてくれるでしょう。すでに銀杏はそろそろ落ちはじめています。来年のお正月には縁起物の「専念寺の銀杏」を袋に入れて、お参りになった檀家さまに差し上げられるかもしれません。

私たちの国の政権がかわり、さまざまな事柄が大きく変化してきています。物事が良いほうへ、穏やかなほうへ、長い目で見て、私たちの子や孫やその孫が幸せであるほうへ変わってくれるよう祈るばかりです。

平成21年10月1日

大黒

